



## DuMA ニュースレター

2016年05月02日

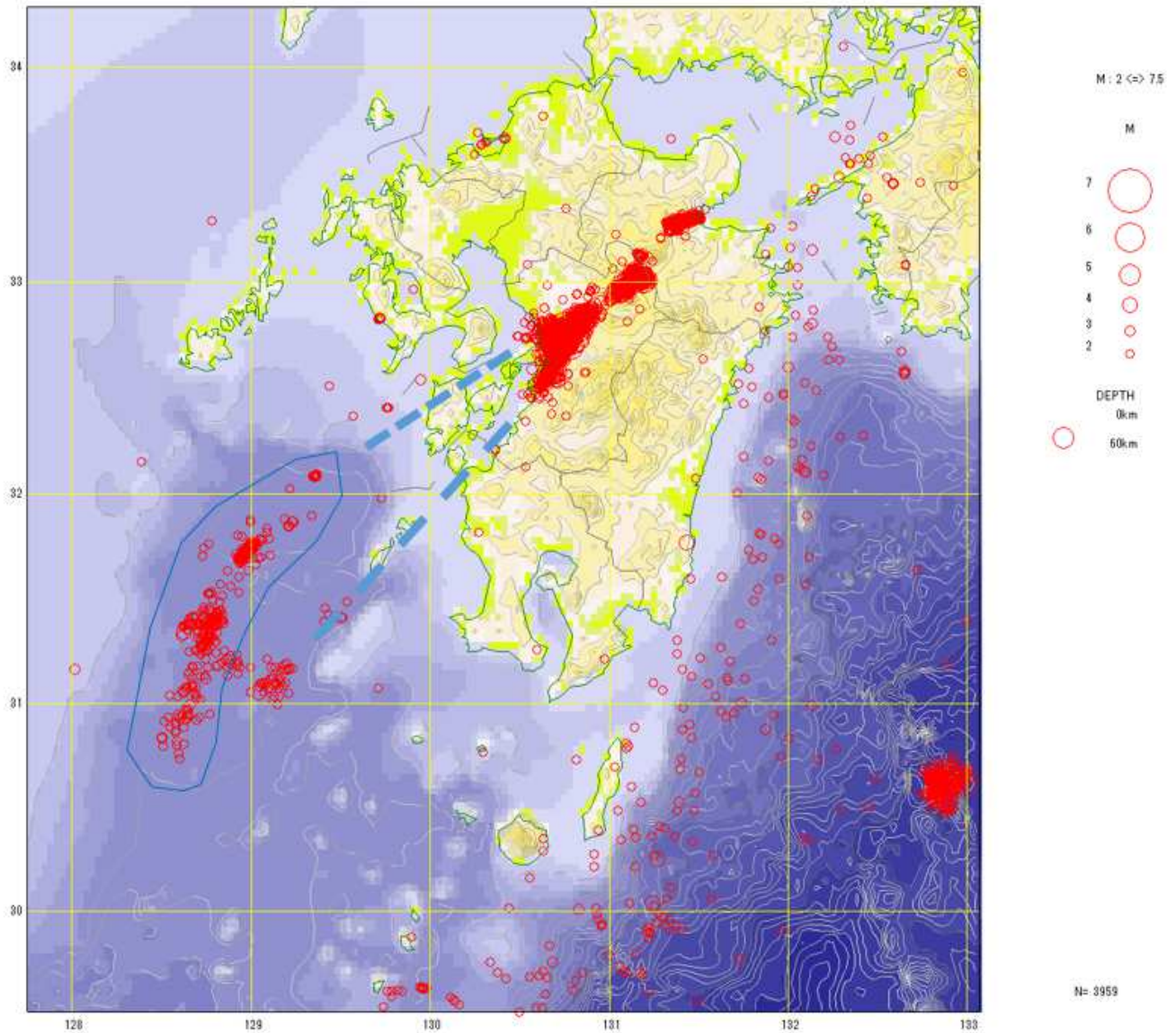
4月14日以降、九州では激しい地震活動が続き、熊本を中心に大きな被害が出ています。実はこれまでほとんど報道されてきませんでしたが、今年に入ってから九州周辺の地震発生状況を見てみますと、非常に特徴ある地震活動が沖縄トラフ方面に伸びている事がわかりました。

沖縄トラフとは、南西諸島・琉球諸島の北西側に位置する周囲より深くなっている凹み（トラフ、舟状海盆）です。九州の西方から台湾島の北方まで、長さ約1,000km、幅約200kmに渡って広がっています。場所によっては熱水の噴出なども確認されており、珍しい生物群集や、鉱物資源などでも注目されている地域です。沖縄トラフは基本的には今回九州で地震を起こした別府一島原地溝帯というものと同じ構造でやはり南北方向に現在も拡大していると考えられています。





2016 1/1 0:0 — 2016 4/28 23:59



上の図は今年の1月1日から4月28日までの地震活動です。九州における赤い点の固まりが4月14日以降の地震活動となります。点線で示した2つの方向（沖縄トラフ方向）にまだ地震が発生していない領域のある事がわかります。沖縄トラフでの地震は今年の1月から3月まで継続的に発生していましたが、沖合で有感地震とはほとんどならなかった事からあまり話題にならなかったものと推察されます。

将来的にはこの間を埋めるように地震が発生すると考えられますが、それが数か月後なのか、あるいは10年後であるのかは、いずれも地球にとっては一瞬の事であり、地震学的には「すぐ後」です。しかし数か月後と10年後では人間の時間スケールでは意味が全く異なります。この活動を予測するためには、地下天気図のような手法で常時地震活動を監視して点線で示された地震空白域をモニターしていく事が必要なのです。DuMAではこのような観点から日本列島の地下を監視していきたいと思えます。